

みなべ

神

清

親

新

深

森

振

紀
行



梅のまち
MINABE

みなべ町 町勢要覧



みなべ **新** 紀行

みなべ町 町勢要覧

発行：みなべ町役場 第1庁舎
〒645-0002 和歌山県日高郡みなべ町芝742番地
TEL 0739-72-2015 FAX 0739-72-1223

みなべ町役場 第2庁舎
〒645-0026 和歌山県日高郡みなべ町谷口299番地1
TEL 0739-74-2400 FAX 0739-74-2367

発行年月：平成18(2006)年5月

<http://www.town.minabe.lg.jp/>
<http://www.town.minabe.lg.jp/i/i.html>



みなべ新紀行

梅のまち MINABE

みなべ振紀行

日本の味を受け継ぐ、梅の王国、誕生。

自分の子どももみたいに一粒ずつ愛おしく世話するんや。

最前線レポート「紀州みなべ南高梅」
21世紀に進化する梅の未来。

梅料理

みなべ森紀行

紀州四百年の匠。世界最高品質の炭。

木切り3年、窯づくり10年。炭焼き一生。まだまだ勉強せえな。

徹底研究「紀州備長炭」
伝統の製法で良質の炭を守る。

みなべ深紀行

800種類の魚が揚がる、黒潮の幸の宝庫です。

ウミガメのふるさと

魚介料理

みなべ親紀行

初めての人にも優しい、自然と人間が自慢です。

みなべ清紀行

南部川の清流に、四季の花に心も洗われて。

みなべ神紀行

いにしへの神々のささやきに耳を澄まして。

脈々と伝わる祈り。

さあ、海へ、山へ、熊野古道へ。

みなべ満喫イラストマップ

みなべ心紀行

心つながりで笑顔の輪をひろげる地域づくり。

対談 みんなみなべが好きだから。

自然の恵みの中で人が輝く

快適なまち、みなべ町をめざして。

まちづくりの施策と基本方針

教育・文化の充実・創造

こころ豊かなひとづくり、まちづくり

交流・連携の強化

子どもたちが安心して暮らせるまちづくり

保健・福祉の充実

だれもが安心して暮らせるまちづくり

環境の整備・保全と生活基盤の整備

安全で快適に暮らせるまちづくり

行政・議会

人々と共に歩み考える、より開かれた行政へ

町民憲章、町の花・木・鳥・魚

いろいろな魅力がいっぱい、
新しいみなべ町を再発見してみませんか。

平成16年10月1日、旧南部町と旧南部川村が合併し、
日本一の梅の町、みなべ町が誕生しました。

海、山、川に恵まれた四季の幸いっぱい、のみなべ町。

昔話やおとぎ話の風景にふっと迷いこんだような

日本人の心のふるさとに

タイムスリップしたような

優しくて美しい自然に抱かれた町には

未来に向かってイキイキと輝く

可能性が溢れています。

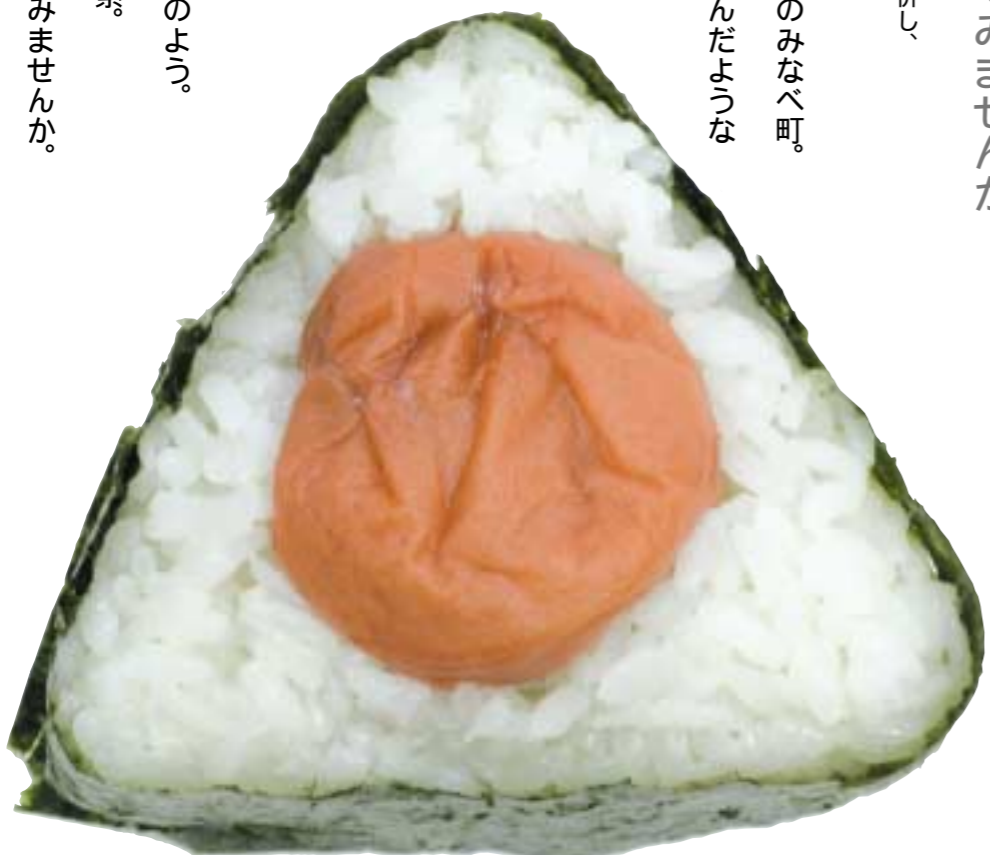
その魅力は、自然の幸を飾ることなく

ギュッと結んで

お楽しみの多彩な具をつめたおにぎりのよう。

みなさんも、ピクニック気分ですべて町を探索。

自分だけのみなべの魅力を再発見してみませんか。



日本の味を受け継ぐ、梅の王国、誕生。



みなべ町の梅の歴史。

平安時代の中期の文献にもすでに「梅干」という言葉が見られるように、梅の歴史は千有余年も前に遡ります。南部郷で梅栽培が盛んになったのは江戸時代初めからで、紀州田辺藩は自生梅しか育たないやせ地を免税地にして年貢を軽減することにより、農民を助け梅栽培を広げました。やがて梅干は江戸で人気が出るように。良品の梅を厳選した南部梅は、「紀伊田辺産」の焼き印を押した樽に詰められ、江戸で有名になりました。

明治時代には南部郷晩稲の内中源蔵翁が郷内に加工場を建て、梅の生産から加工まで一貫した商品化に成功。梅の里として発展する契機となりました。南部梅林内の小殿神社前にはその功徳を偲んで顕彰碑が建てられています。

梅の最高品種 「南高梅」の誕生。

大粒で肉厚、ジューシーな南高梅は、南部郷で長い年月の研究の末にたどりついた最高級の漬け梅品種で、紀州みなべの梅干の原料となります。

昭和25年、戦後の農業復興に際し、南部郷の梅の品種統一を図るため、郷内で栽培されていた114種類の梅の中から、5年の歳月を費やして最優良品種の選抜を実施。その結果、「高田梅」ほか7種が優良母樹に選定されました。中でも最も風土に適した最優良品種と評価された「高田梅」は、母樹選定調査研究に深くかかわった南部高等学校園芸科の努力に敬意を表し、「南高梅」と命名されました。昭和40年には難関を突破して当時の農林省に種苗名が登録され、栽培は郷内全域に広がりました。

現在「南高梅」は、みなべ町で栽培される梅の8割を占め、梅のトップブランドとして全国に、世界にその名を馳せています。



21世紀に進化する梅の未来。



うめ21研究センターとともに「梅のまち」みなべ町のシンボル、うめ振興館。町や梅の歴史を楽しく学べます。多くの人々が交流する道の駅でもあります。



「うめ21研究センター」は研究の中心拠点だけでなく、産地としての情報発信基地という大きな役割も果たしています。



実験室で梅干の果肉に含まれる塩分やクエン酸の含有量を測定。



「将来は、地域のリーダー的な存在に」研究センターでは、毎年、研修生を受け入れ、1年間みっちり梅栽培のノウハウを伝授しています。



実験農場で花の受粉状態をチェック。花が大きければ受粉能力も高まり、実をつけやすくなります。

紀州 みなべ 南高梅 最前線レポート

「うめ21研究センター」は、梅農家の方々が昔から培ってきた梅栽培の知識を科学的に分析しデータベース化することで、町の特産物である梅の可能性を拡げていくという目的で設立されました。

今までの研究成果では、南高梅にはクエン酸など体に良い成分が多く含まれていることが分かっています。県立和歌山医科大学との共同研究により、生活習慣病を促す動脈硬化を抑制し、また、消化性潰瘍発症



に關係があるとされるヘリコバクター・ピロリ菌を減少させる働きがあります。このような研究成果をもとに、医学的な分野でも南高梅の効能を活かすことができないかと新しい梅の可能性を探求しています。

また、さらに美味しい梅づくりを目指し、南高梅栽培に最適な台木品種の研究や南高梅の遺伝子を受け継いだ新品種の探求、農薬や肥料を最小限に抑えた環境にやさしい栽培方法の確立、新たな加工技術の開発など、梅と言えればみなべ町と言われるブランドづくりに日夜、研究を重ねています。

「うめ21研究センター」の平喜之さん(右)と林尚和さん(左)、梅農家からの相談には現場に赴いて対応するなど「地域に密着した、愛される研究員がモットーです」と多忙な日々を送ります。



みなべ 振 紀行

自分の子どももみたいに一粒ずつ
愛おしく世話するんや。



梅干に最適な完熟した南高梅は、花が終わった後の5月から7月に収穫されます。枝から落ちた梅も山腹の斜面に張ったネットで傷がつかないように保護し、大切に集めます。

収穫した梅の実は流水できれいに洗い、品質検査の後にサイズ別に選別、漬槽タンクの中で1カ月以上漬け込みます。

8月、梅の実から梅酢があふれだし、美味しい梅干が漬け上がり、いよいよ天日干し。ビニールハウスの中で一粒ずつ裏返しながら丁寧に乾かします。そうして、「自分の子どももみたいに一粒ずつ愛おしく世話した」紀州みなべの美味しい梅干の出来上がりです。





梅むすび



梅天ぷら

梅料理



「私たちが作りました」
みなべ町梅料理研究会の皆さん

ミネラルをはじめクエン酸やポリフェノールをたっぷり含んだ梅は、まさに健康食品の王様。疲労回復や骨粗しょう症・骨折の予防、血液をサラサラにする血行改善、食欲を増進させ胃を守る効果など身体に良い効能がいっぱいです。

梅の味わいを上手にアレンジした、みなべ町ならではのヘルシーな郷土料理をご紹介します。

梅羊羹



梅寒天



梅巻寿司



梅茶粥



梅サンドイッチ



紀州四百年の匠。世界最高品質の炭。



白炭の最高傑作、紀州備長炭

炭には温暖な地域にのみ生育する硬い材質のウバメガシやアラカシの木を1000以上の高温で焼く白炭と、ナラやカシの木などを400〜700位の低温で焼く黒炭があります。着火しやすく高温になるが火持ちが短い黒炭に対して、白炭は着火しにくい着火力が強く長持ちするのが特徴です。生活燃料として発達し、昔からうなぎの蒲焼きや高級料理の燃料として重宝されてきました。

なかでも、和歌山県の県木であり、みなべ町の木でもあるウバメガシを使った紀州備長炭は世界の最高傑作として評価されています。

紀州備長炭の起源と歴史

紀州備長炭の起源は古く、平安朝時代の弘法大師の頃と伝えられます。そのルーツは紀南地方の村々で焼かれていた良質堅炭「熊野木炭」に遡ります。江戸時代には炭焼き人によって備長炭の製法や窯の形、焼き方に独自の方法が発達し、徳川家への献上品に選定されるなど藩の貴重な特産品となりました。備長炭の名前の由来は、元禄年間に紀州田辺藩で炭問屋を営んでいた備中屋長左衛門が自分の名前をとって名付けたのが始まりと言われます。江戸で好評を得たことから一躍、その名を知らしめる人気商品となりました。



白炭は、製炭の段階で、窯の中に空気を入れ炭材が熱分解する時にほぼ焼き上がった炭を1000以上の高温の中で精錬します。製炭士の熟練と勘で、真っ赤になった炭を一本ずつ窯口から素早く取り出し、灰と土を混ぜた消粉と呼ばれる灰をかけて冷やしながら炭を消火させます。炭の表面に灰がついて炭が灰白色となることから「白炭」と呼ばれています。

和歌山県内の紀州備長炭製炭技術は昭和49年4月に県無形民俗文化財に指定されています。なかでもみなべ町の備長炭は、現在も昔ながらの伝統を受け継いだ熟練の製炭技術で、日本一の品質と日本有数の生産量を誇っています。

新たな分野に広がる炭の効用

紀州備長炭は、うなぎの蒲焼きや焼き鳥に代表されるように、魚、肉など焼き物料理の旨味を増し、うちわ1本で火加減の微妙な調整が思うがままにできる燃料として料理人に愛用されてきました。

近年、炭の消臭・除湿効果や、汚水や空気を浄化する作用を活用した、燃料以外の効用が脚光を浴びています。なかでも硬くて丈夫な備長炭は、長期間の使用に耐えられることから新分野でも重宝され、脱臭剤、湿気を調整する建築資材、また食品添加物や繊維加工の分野など様々な場面でユニークな製品が開発され人気を集めています。



備長炭の調湿、殺菌・消臭、空気清浄効果を活かして、インテリアグッズや、『着る炭』Tシャツなどユニークな商品が開発されています。



山肌が生えているウバメガシ。炭にする原木は樹齢20〜30年のものを使います。



曲がりくねって硬いウバメガシは、窯にたくさん入るようにノコギリで切り目を入れます。加工します。

木切り3年、窯づくり10年、炭焼き一生。
まだまだ勉強せえな。

紀州備長炭の製炭技術は昭和49年4月9日に県無形民俗文化財に指定され、県で指導製炭士を認定しています。
みなべ町では、日本有数の紀州備長炭の産地として伝統的な炭焼き技術を継承し、良質の炭をお届けするために、未来の後継者の発掘・育成を図るとともにウバメガシの原木の確保・育成に努めています。
ほんまもんを求める人が増え、また炭の効能が話題になって、紀州備長炭の需要がますます高まる中、熟練製炭士と若い製炭士が炭づくりに情熱を燃やす現場をご紹介します。



伝統の製法で良質の炭を守る。

紀州 備長炭

徹底研究



原さんの炭焼きの窯。昔の製炭士はウバメガシを育てながら山から山へ窯を移動させ、環境を保全しながら炭を焼いた。

「木切り3年、窯づくり10年、炭焼き一生。まだまだ勉強せえな」と話すのは、みなべ町備長炭生産者組合長の原正昭さん。お父さんも炭づくり50年の経歴を持つベテランの製炭士です。
代々製炭士の家系で育った原さんは、昔ながらの製炭技術を受け継ぎ、自分の手で伐採したものを自家製の窯で焼きます。「みなべは良質の備長炭づくりには必要がすべて揃う町です。自然条件が厳しい山で育ったウバメガシはたくまし、窯に使用する土も1000度の高温に耐えられる粘質の強いみなべの土が最適です」と話す原さんに製炭士の職人気質と誇りがみなぎります。



現在は製炭士をめざすリターン者、イターン者など若い人たちも増え、女性ながら熱心に取り組んでいる人もいます。「永い歴史と伝統を誇る製炭技術を守り、備長炭をみなべブランドとして浸透させていくためにも、みんなで良いものを作るんや」というこだわりをもって精進したい」と原さんの炭づくりへの夢は大きく広がります。



備長炭生産者組合長の原正昭さん(右)とお父さんの原幸夫さん(左)、製炭士として父に教わることは多い。



紀州備長炭振興館

館内には、備長炭の歴史や製造工程がわかる資料や道具が展示され、製炭窯では窯出しの見学や体験実習も楽しめます。また、テレビアニメでも放映された、みなべ川森林組合のマスコットキャラクター「びんちょうタン」も好評で、関連グッズなどが人気を集めています。



ウミガメのふるさと



みなべ町の自然豊かな美しい海岸、千里の浜や岩代の浜はアカウミガメの産卵地としても有名で、本州一の産卵数を誇ります。

産卵シーズンである5月から8月上旬にかけてたくさんのアカウミガメが夜間に上陸し、卵が水に浸って死んでしまわないように高潮線よりも高地の砂場を選んで卵を産みつけます。上陸して卵を産み、海へ戻るまで約2時間の大仕事です。

卵は2カ月ほどでふ化し、子ガメたちは夜を待って海に向かいます。夜は海面が反射して明るいからです。建物などの人工灯が多い浜では子ガメは方向を誤って海へ戻れないため、親ガメは本能的に光のある浜を嫌がり、自然豊かな浜を選ぶのかもしれない。

無事に生まれた子ガメたちも小さいうちは鳥や魚の餌食になることが多く、1シーズンに成熟体になるのは1~2匹くらいではないかといわれています。

ウミガメを守る人たちは、生まれてくるかけがえない小さな命のために安全な環境づくりに活動しています。



青年クラブのウミガメパトロール。夜の浜を見回り、卵が危険な場所にあると、慎重に掘り返し、安全な場所へ移動させる。



20年以上もウミガメ保護活動続ける町ウミガメ研究班の後藤清さん。



800種類の魚が揚がる、みなべ **深** 紀行 黒潮の幸の宝庫です。



紀州灘に面して黒潮の恵みを受ける、みなべの豊かな水産業。漁港では、イワシ、ヒラメ、伊勢エビ、カツオ、アジ、タチウオ、ガシラ(カサゴ)、サバなどをはじめ、タカアシガニ、タコ、イカなど800種を超える近海ものの鮮魚介類が水揚げされ、活気に満ちた大漁の歓声が響きます。

また、めざしやイカの一夜干し、シラスちりめん、アジの開き、カマスの開きなどの干物をはじめ水産加工も盛んに行われています。





いわしの天ぷら



いわしの宝楽焼き



カツエビのむし煮



カワハギの刺身

魚介料理



「私たちも作りました」
お魚ママさんと南部漁協女性部の皆さん

みなべ町の家庭では、都会ではなかなか
味わえない、とれとれの旬の新鮮な海の幸
が食卓を彩ります。
そのメニューは、家庭で代々受け継がれ
てきたおふくろの味から、祭りを祝う伝統
のご馳走まで多彩です。
地元ならではの、素材の味わいを活かし
た季節の料理をご紹介します。

いわしと梅の
たきあわせ



いわし寿司



初めての人にも優しい、自然と人間が自慢です。

みなべ 親 紀行

海あり、山あり、川あり、温泉あり、そして人情あり。みなべ町の豊かな自然と、町に住む人たちは、町を訪れるお客様をおおらかに受け入れます。

みなべ町では、観梅、磯遊び、熊野古道めぐり、海辺と山あいの温泉めぐりと、春夏秋冬を通じてそれぞれのシーンを楽しめます。そして、そこにはおもてなしする人がいます。

これからも、みなべ町を訪問してくれたお客様が「二度も三度も来てみたい」と思ってください。観光地や施設だけでなく、町そのものの魅力、人の魅力をパワーアップしていきます。



「あ、魚がはねてる！」漁師さんの船に乗って刺し網漁体験



花火祭り
みなべの沖に浮かび、津波から何回も町を救ってくれた鹿島に感謝して、宝永(1708)年から始まりました。



「大きくなって帰ってきて」と稚魚の放流体験



眼下に大海原が広がる南部温泉(国民宿舎)



深い山あいの野趣豊かな鶴の湯温泉



梅料理研究会が南部梅林のお客様を梅料理でおもてなし



お魚ママさんと南部漁協女性部が町外からのおさかな応援団を魚料理でおもてなし



みなべ **清** 紀行

南部川の清流に、 四季の花に心も洗われて。

みなべ町の最も奥深い山、虎ヶ峰に源を発する南部川は、町の景色を映しながら、ゆったりと流れていきます。町を縦断して太平洋に注ぐこの清流には、カワムツ、オイカワ、ヒラテナガエビ、トンボやトビケラの幼虫、アメンボなど川の住人たちが暮らします。

四季の花々が川辺に季節の訪れを知らせ、長い旅を終え飛来した野鳥の群れが水浴びを楽しみます。その風景は、まるで優しい水彩の絵のようです。

人々はそんな南部川を見ながら、移りゆく自然に日々の多忙を忘れ、のんびりと心和む時を過ごします。





清川天寶神社



高城天寶神社



須賀神社

いにしえの神々のささやきに 耳を澄まして。

みなべ 神 紀行

平成16年7月7日、和歌山県の高野・熊野地域をはじめ、奈良県、三重県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されました。

熊野信仰は平安時代に皇族や貴族たちが秘境熊野に現世浄土を求めたことから始まりました。みなべ町にも登録こそされなかったものの古代の人々が肅々と歩いた熊野参詣道(熊野古道)が通っています。

有間皇子結松記念碑が建つ岩代の地から海岸に沿うように熊野古道を辿ると、熊野詣の旅人が体を休め熊野に向かつて選擇したという王子社や往時をしのぶ風景が残り、いにしえ人のささやきが聞こえてきそうです。

特に、岩代から目津崎に至る、古代から岩代の浜・千里の浜と呼ばれた道は、熊野詣の旅人が長い道中で初めて海辺を歩いた場所です。その喜びの気持ちを映してか、伊勢物語、枕草子、大鏡、新古今和歌集など多くの文献に千里の浜のことが記されています。



千里の浜



神が棲む島 鹿島

熊野古道を辿って国民宿舎

「紀州路みなべ」近くまで歩を進めると、埴田崎の沖あい約500メートルに美しい姿を見せる鹿島。鹿島神社の神域で、古代より神の島と崇められる周囲約1.5キロメートルの島は、見る方向によって三つの鍋を伏せたような形に見えます。みなべの名はその姿に由来しているとも伝えられます。

現在は県立自然公園第1種特別地域に指定され、島の自然や歴史の足跡が大切に保護されています。



鹿島神社



千里王字



三鍋王字



西岩代八幡神社



東岩代八幡神社



岩代王字



熊野古道に往時を偲ぶ



有間皇子結松記念碑



鹿島神社秋祭り



10月になると町は祭り一色で賑やかに彩られます。馬駆けが迫力の「須賀神社の秋祭り」、子どもたちの子踊りが愛くるしい「東岩代神社の秋祭り」「西岩代神社の秋祭り」を皮切りに、神輿や奴行列が華やかな「鹿島神社の秋祭り」、そして獅子舞が勇ましい「高城天宝神社の秋祭り」や「清川天宝神社の秋祭り」と、毎週、町民や大勢の見物人の歓声が響きわたります。

西岩代神社秋祭り



東岩代神社秋祭り



高城天宝神社秋祭り



清川天宝神社秋祭り



みなべ神 紀行

脈々と伝わる祈り。



須賀神社秋祭り



さあ、海へ、山へ、熊野古道へ。

みなべ満喫イラストマップ





子育ての悩み、高齢化の問題、世
代を越えた友達づくり。一人ひとり
では実現できないことも地域のみな
なが協力すれば、素敵なふれあいの
輪が広がる。そんな地域交流の取り
組みが行政とボランティア、町民の
皆さんが一体となって始まっています。

心つないで 笑顔の輪をひろげる 地域づくり。

みなべ
心
紀行



みなべ町地域子育て支援センター「こひつじランド」での教室風景。子育てに悩む若いお母さんの頼もしい味方として、育児講座など学習会の開催をはじめお母さんたちの友達づくり、コミュニケーションづくりに役立っています。「こひつじランド」では地域のサークル支援をはじめ、子育て応援ボランティアの輪も広がっています。



「ハッハッハ〜！」。ふれ愛センター(保健福祉センター)の一角にあるふれ愛喫茶からみんなの笑いが聞こえてきます。喫茶を切り盛りするスタッフは全員ボランティア、交替で月曜日から金曜日まで午前・午後2時間ずつ(土曜日も午前だけ)営業しています。そもそも、ふれ愛喫茶は「みんなが集まって気楽にしゃべって笑う場があったらええな」というみんなの願いを受けて、平成10年、ふれ愛センター開館と同時に始まりました。以来、口コミでだんだんと増え続け今では70人ほどにもなった笑顔美人のスタッフの皆さんが、今日も笑顔でお客さんをおもてなしています。ふれ愛センターの2階には子どもも大人も楽しめるクライミングウォール/ロッククライミングの練習の壁もあり、歓声が響きます。



みんななみなべが好きだから。

将来のみなべ町を担う原動力となる若者の質問に、山田町長がざっくばらんに答える対談スタイルで、皆さんに大好きな故郷のこれからを熱く語っていただきました。



細川 それではまず合併に関する話から進めていきたいと思っています。ご質問をお願いします。



細川安宏さん(みなべ町筋) 司会進行。みなべ町教育委員会地域教育主事。

早川 合併によるメリット・デメリットは何だとお考えですか。

町長 本当の合併とは行政だけでなく住民同士が一つになることだと思っています。旧南部町、旧南部川村のときから産業も生活文化も人の考え方も似ており、合併前のアンケートでも2町村同士の合併を望む声が圧倒的に多かったみなべ町



早川明由美さん(みなべ町北道) JAみなべいなみ勤務。「大学時代、みなべに帰ってきて海や山を見るたびホッとしました。これからは自然に囲まれた美しいみなべ町を守ってほしいと思います」

では、すでにそれができつつあります。あとはほとんどまちづくりを進めていけばいい。それがメリットですね。デメリットはほとんど見あたりません。しかし、小さな合併ということから人口が比較的

少なく、これから解決のため努力していかねばなりません。

早川 今後さらに広域合併はあるのでしょうか。その時、みなべはどうなりますか。

町長 今後10年間くらいは大きな動きはないだろうと思いますが、この10年間に経済、福祉、教育、町の力をしっかり蓄えておくことが大事です。20年後、30年後の大きなうねりに備えて



山田五良町長(みなべ町晩稲) 旧南部川村長。「行政に携わる者として昭和、平成と2度の合併を体験しました。小さくとも個性あるまちづくりのため頑張っています」

イニシアティブをとれる町として成長しなければなりません。そのためにも若い皆さんに頑張ってもらいたいと思います。

細川 将来の発展を考えると、今では基幹産業である梅産業の活性化が重要となりますね。

井口 今後の梅産業の発展策について具体的な取り組みはありますか。

町長 みなべの梅産業は町の経済を豊かにし、ひいては教育や福祉事業を充実させる原動力となっています。しかし、日本経済の低迷、中国産梅増加、国内の産地間競争激化などにより梅の売れ行きが伸び悩んでいます。こういうときこそみなべの梅ブランドを守り続けていくことが大切です。国内でも国外でも打ち勝っていく力をつけるため、農業者、農協、梅加工販売業者、町行政の4者ががっちり歯車をかみ合わせて取り組まねばなりません。



井口裕元さん(みなべ町西本庄) 青年クラブみなべ副会長。会社役員。「みなべ町のいいところは田舎の安らぎ空間があることです。町へ戻ってくる若い人たちの知識や経験を活かせる場をもっとつくりたいと思います」

ために、良いアイデアはありませんか。

町長 やはり高齢者にもっと食べてもらうようにすることが大事だと思います。また、梅干の需要を将来まで確実に増加させるためには子どもの時から梅干を食べる習慣を浸透させる努力も大切でしょう。家庭はもちろんだら給食でも梅干を食べてもらえるように全国PRをしたり、バレンタインデーならぬ梅干デーをつくら

り、子どもにも食べられるような梅商品の開発なども必要だと思います。また最近、町が研究していた梅のもつ成分の医学的効能の結果が出ましたので、確たる健康食品として売り出していく予定です。

東 新しい需要を創造するということ点で梅農家ができることはありますか。

町長 梅とえば観光客も大事です。高速道路が田辺まで延びることによって観光や産業への影響をどうお考えですか。



東 匡一さん(みなべ町晩稲) みなべ梅郷クラブ所属。梅農家。「少しの間外へ出てきましたが、町へ帰ってきたときはホッとしました。救急車や消防車が入れない道が結構多いので、早く拡幅してほしいと思います」

町長 高速道路が延びればみなべが素通りされてしまふという懸念はありません。そうならないように、平成19年2月の全国梅花フェスティバル開催を誘致するなどの積極

的に観光と産業を結びつけたPR活動に取り組んでいます。また、このころ外国からの宿泊客も増加傾向にありますので、彼らの興味をひく魅力づく



林 晴香さん(みなべ町東本庄) みなべ町商工会勤務。「町で楽しく暮らしています。外灯が少なめなので、みんなの安全のために増やしてほしいと思います」

町長 合併後1年が経ち、あなたたち青年クラブや婦人会など各団体が積極的に活動してくださるおかげで、地域が融合してうまくまちづくりが進んでいま

中早 私たち若者に期待されることやご意見をお聞かせください。

町長 今後10年間くらいは大きな動きはないだろうと思いますが、この10年間に経済、福祉、教育、町の力をしっかり蓄えておくことが大事です。20年後、30年後の大きなうねりに備えて



中早大輔さん(みなべ町西岩代) 青年クラブみなべ会長。梅農家。「様々な青年活動が盛んなみなべ町を誇りに思います。これは、みんな町が好きだという証拠だと思いますし、行政のバックアップのおかげと感謝しています」

す。このように町が活性化され、軌道に乗っている今、それぞれのポジションで一人ひとりの活躍を願っています。若い方は、新しい感覚で勉強もいろんな活動も精いっぱい頑張ってください。自分たちで自分たちなりの新しい道をどんどん切り拓いてもらいたいと思います。そして、若い力でみなべ町をより一層活気ある町にしていきたいです。あなたたちの柔軟でのびやかなパワーに大いに期待しています。

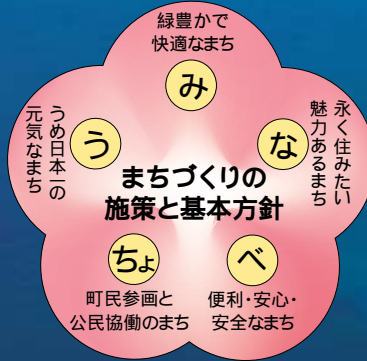
有本 梅干がもっと売れる



有本圭吾さん(みなべ町東岩代) 青年クラブみなべ副会長。梅農家。「人情味あふれるみなべの人たちが大好きです。残念なのは古川が汚いこと。早くきれいな川に戻してほしいと思います」

町長 観光と産業を結びつけたPR活動に取り組んでいます。また、このころ外国からの宿泊客も増加傾向にありますので、彼らの興味をひく魅力づく





自然の恵みの中で 人が輝く快適なまち 「みなべ町」をめざして



「学校楽しかった？おうちまで気をつけて帰ってね」



「それから...、図書館分館で読み聞かせに聴き入る子どもたち」

交流・連携の強化

子どもたちが安心できるまちづくり



「よろしく、おっちゃんたちは地域安全推進委員です」

町内の交流と連携を充実させることで安全で安心できるまちづくりを目指しています。特に地域の宝である子どもたちを危険から守るために交流と連携が進んでいます。例えば、通学路の店や事業所、一般家庭など約250軒が「いざ」というときの避難所になっています。それから、たくさんの人たちが自家用車に「校内見回り中」というステッカーを貼っています。このようなことが、町民みんな子どもを守っているという連携意識を高め、防犯効果にもつながっています。

また、町も子どもたちの健全な育成を見守る拠点として青少年センターを設置しました。センターの中には不登校や引きこもりがちな子どもたちのために少し年上の相談相手メンタルフレンドもいます。



「いざ」というときの避難所「きしゅう君の家」

見回りステッカーをつけた車で配達中



思春期体験学習で中学生が乳幼児健診のお手伝い

教育・文化の充実・創造

こころ豊かなひとづくり、まちづくり

町の次代を担う子どもたちのすこやかな育成のために、学校では自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力を幅広く教育に取り組んでいます。町が行う生涯学習やスポーツの各事業でも、子どもたちだけでなく町民すべてが気軽に参加し交流できるように、生涯学習センターや各公民館、図書館、スポーツ施設などを整備するとともに、様々な機会を提供しています。

また、先人が残してくれた熊野古道など貴重な歴史的・文化的遺産を守り、さらに後世へ伝えていくべく努めています。



南部梅林で紀州梅林太鼓を披露する上南中學生たち



「目指すは宇宙飛行士！」、宇宙少年団の子どもたち



中央公民館よさこい教室「ブラリズム」の皆さん

安全で快適に暮らせるまちづくり

海、山、川、平野がもたらす豊かな自然環境を守るため、下水道の整備をはじめ、ごみの減量や省資源化、リサイクル推進に努めています。また、いったんは造成され荒れ地となっていた山林を100年かけて自然樹林に戻す壮大な計画に取り組みはじめました。

生活基盤においては道路、橋梁、河川の整備に努めています。それから、近い将来必ず起きるといわれる大地震に備えて防災計画と防災対策の整備を急ぐとともに、「まず自助・共助から」と町内全地区への自主防災組織設置を呼びかけています。また、より地域情報を発信し、生活の利便性を高めるためプロードバンド網の整備に取り組んでいます。



「ぼくたちも三里ヶ峰へ100年かけて森づくりのお手伝い」



町の中心部を南進する高速道路

近い将来必ず起きるといわれる大地震に備えて、町内一斉防災訓練



中学生も水辺のクリーンアップ大作戦に参加して南部海岸を大掃除

だれもが安心して暮らせるまちづくり

「人生幸福の原点は健康」。町民の幸せを願って、保健事業は健康の増進から疾病の予防、早期発見、リハビリテーションまで一貫した体制のもとに、健診事業の効率アップなど各種事業の推進に取り組んでいます。

また、障がい者・児童・高齢者、生活保護、介護保険、国民健康保険など広範囲にわたる福祉分野は、町民みんなが安心して充実した生活を送れるよう支援の充実と地域社会の構築に取り組んでいます。子育て支援対策は、児童手当や医療費扶助など国や県の施策とともに拡充に努めています。



保健・福祉の拠点、ふれ愛センター



乳幼児健診



いきいき体操

「普段、健康で仕事できるから、ゲートボールもよけ楽しいんやで」と清川ゲートボールクラブの皆さん





役場第1庁舎



人文字でつくった町章平成17年10月、合併1周年記念・みなへわいわいバスデーで町民約500人が参加してつくってくれました。

行政・議会

人々と共に歩み考える、より開かれた行政へ。



行政

多様化する町民のニーズに迅速に対応するため、広報広聴活動を充実し、事務の合理化・スピードアップに努めています。それとともに、指定管理者制度の導入など民間団体との協働に努め、スムーズな行政執行を目指して行政組織の改革に取り組んでいます。



議会

町政に町民の声を反映させるという重要な役割を担う町議会は、合併後の多様化する行政需要に対応するため能率的な議事運営を図っています。それとともに、人々と共に歩み考える開かれた行政を目指して、様々な施策をみなへ町に暮らす町民の視点で考え、常に適性・公平・効率的かつ民主的に活動しています。



みなへ町民憲章

わたしたちは 日本一の梅の里
みなへ町の歴史と自然の恵みに感謝し
だれもが住みたいと思える
新しいまちづくりへの誓いをこめて
ここに町民憲章を定めます

- 1 海 山川の自然を愛し 美しいまちをつくります
- 1 産業に誇りをもち 活力あるまちをつくります
- 1 健康と安全を願い 笑顔あふれるまちをつくります
- 1 歴史に学び 香り高い文化のまちをつくります
- 1 交流の輪を広げ 互いに支えあうまちをつくります



町の花 うめ



町の木 うばめがし



町の鳥 うぐいす



町の魚 いわし